

令和4(2022)年度東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻博士後期課程入学志願者案内

1. 出願資格

入学志願者は大学院博士後期課程の出願資格（詳細は工学系研究科博士後期課程学生募集要項を参照）を有していなければならない。ただし、その専門分野および資格取得年次は問わない。また、外国の大学において修士に相当する学位を授与された者は、原則として博士後期課程の入学の前に少なくとも6ヶ月間研究生として在籍しなければならない。
なお、令和4(2022)年度の博士後期課程の入試は今回だけである。(年1回)

2. 希望指導教員及び系と出願書類及び推薦状について

大学院入学者は指導教員のもとで研究を行うので、入学志願者は研究の指導を希望する教員名（第一希望、第二希望、各1名ずつ）及び系を、5ページに示す指導教員の一覧から選択し、別紙1の希望指導教員申告書A欄に記入すること。別紙1は出願時に、他の出願書類と共に送付すること。

各教員は6つの系（意匠系、計画系、歴史系、構法系、環境系、構造・材料（構材）系）のうちいずれか1つの系に所属している。各教員が所属する系は5ページの一覧に示されている。

東京大学大学院工学系研究科以外の大学院修了又は修了見込みの者は、推薦状2通（書式自由、A4 1枚以内：一通は出身大学院の教員が差出人）を提出すること。

別紙1及び推薦状2通は出願時に、他の出願書類と共に送付する。必要ならば、関係資料を添付してもよい。

「令和4(2022)年度東京大学大学院工学系研究科博士後期課程学生募集要項」に示された提出書類等に加えて、以下の表に示す書類を提出すること。提出方法の詳細は建築学専攻 Web サイト (<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>) にて発表する。

各書類の受付期間は次の通りである。

- (1) 希望指導教員申告書及び推薦状
2021年7月1日（木）から7月7日（水）まで
- (2) 研究計画書
2021年7月1日（木）から7月30日（金）まで

書類	提出者	摘要
希望指導教員申告書	全員	別紙1により作成、出願時に他の出願書類と共に送付すること。
推薦状	該当者	東京大学大学院工学系研究科以外の大学院修了又は修了見込みの者は、推薦状2通（書式自由、A4版1枚以内：一通は出身大学院の教員が差出人）を提出すること。 出願時に他の出願書類と共に送付すること。
研究計画書	全員	希望指導教員の系に応じて、以下別紙に従い作成すること。なお、同じ系に属する複数の指導教員を希望する場合、その系については最も上位の希望指導教員についてのみ作成すること。また、複数の系の指導教員を希望する場合、系ごとにそれぞれ作成すること（例：第1希望が意匠系、第2希望が計画系の場合、第1希望及び第2希望の研究計画書を作成すること）。 ①意匠系：別紙3A、②計画系：別紙3B ③歴史系：別紙3C、④構法系：別紙3D ⑤環境系：別紙3E、⑥構造・材料系（構材系）：別紙3F ※別紙3A～3Fについては、2021年5月31日に建築学専攻 Web サイト (https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/) にて発表する。

3. 募集人員と入学時期

2022年度の建築学専攻・博士課程の募集人員は16名である。なお、建築学専攻では、入学後の

研究指導が特定の教員に偏ることを避けるため、教員一人当たりの受入人員に制限を設けている。合格者の入学時期は、通常、2022年4月である。ただし、工学系研究科博士後期課程学生募集要項にも記述があるが、2021年9月までに大学院修士課程を修了あるいは修了見込みであれば、2021年10月に入学することが可能である。

4. 選抜方法

以下に示す第1次試験及び第2次試験を課して受入予定者を選抜する。

(1) 第1次試験

(A) 筆記試験

試験科目	試験時間	適用
1. 外国語 ^{※1}		英語 (TOEFL [®] のスコア提出) ^{※2}
2. 専門科目 ^{※1} 専門課題Ⅱ	3時間 または 4時間	次の4群の中からいずれか1群を選択して解答する。選択する群を、出願時に別紙1・B欄に記入すること。 第1群 建築設計課題 (4時間) 第2群 建築計画・建築史・構法系課題 (3時間) 第3群 建築環境系課題 (3時間) 第4群 建築構造・建築材料系課題 (3時間)

※1 東京大学大学院工学系研究科修士課程を修了または修了見込みの者に対しては、筆記試験は省略される。

※2 外国語試験に関する詳細は、「令和4(2022)年度東京大学大学院工学系研究科大学院入学試験外国語(英語)試験に関するお知らせ」(TOEFLスコア提出)を参照すること。

(B) 口述試験

一人当たり10分程度の面接を行う。面接の使用言語は日本語または英語とする。

(2) 第2次試験

修士論文等(修士論文もしくはそれに代わりうる研究論文など)を発表し審査を受ける。

志願者は修士論文(日本語又は英語の場合)3部を提出する。

その他の言語の修士論文は、論文1部の他にその論文の内容を要約したもの(日本語又は英語)3部(A4様式1ページ400字数で30ページ程度)を次ページの締切日までに建築学専攻事務室へ提出しなければならない。

なお、本専攻の修士課程から継続して博士後期課程に進学する志願者においては、本専攻の提出要領に従う。

5. 試験日程

(1) 第1次試験

試験科目	日時	試験場	携行品	備考(重要)
(A) 筆記試験 ^{※1}				英語 (TOEFL [®] のスコア提出)
英語				
専門課題Ⅱ 第1群	9月1日(水)	1号館 製図室 (他)	鉛筆、消しゴム、 鉛筆削り、コンパス、T定規 物差、着色用具、 三角定規	
専門課題Ⅱ 第2群 第3群 第4群	9月1日(水)	法学部法文1号館 (他)	鉛筆、消しゴム、 鉛筆削り、コンパス、三角定規	
(B) 口述試験 (面接)	9月2日(木)	1号館 及び		

		11号館 (他)	
--	--	-------------	--

※1 東京大学大学院工学系研究科修士課程を修了または修了見込みの者に対しては、この筆記試験は省略される。

※集合場所・時間等の詳細は本専攻の Web サイト (<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>) に掲載する。

(2) 第2次試験

試験科目	対象者	日時	試験場	備考(重要)
修士論文等*1の発表と審査	2022年4月入学希望の全志願者	2022年 1月24日(月) 1月25日(火) 予定	1号館 11号講義室 及び 12号講義室*3	発表・審査会等の詳細は追って掲示もしくは本専攻の Web サイトで発表する。修士論文等3部を2022年1月17日(月)16:00までに当専攻事務室に提出する。*4
	2021年10月入学希望*2で、2021年9月に本専攻修了見込みの志願者	2021年 8月2日(月) 8月3日(火)	1号館 15号講義室*3	発表・審査会等の詳細は追って掲示もしくは本専攻の Web サイトで発表する。修士論文等3部を2021年7月26日(月)16:00までに当専攻事務室に提出する。*4
	2021年10月入学希望*2で、上記に該当しない志願者	2021年 9月2日(木) 9月3日(金)	1号館 15号講義室*3	

*1 東京大学大学院工学系研究科修士課程建築学専攻以外を修了した者または修了見込みの者は、発表当日、配付用に論文の概要等(ページ数自由、日本語又は英語)を20部程度用意すること。

*2 2021年9月までに修士課程を修了した者または修了見込みの者でなければならない。

*3 新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、オンラインによる発表で代替することがある。代替する場合には、本専攻の Web サイトで試験日の1か月程度前までに周知する。

*4 提出方法の詳細は建築学専攻 Web サイト (<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>) にて発表する。

6. 注意事項

- (1) 入学試験受験者心得(本専攻の Web サイトに掲載(<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>))をよく読んでおくこと。
- (2) 建築専門科目は試験開始後30分を過ぎての入室は、いかなる事情があっても認めない。
- (3) 受験票の写真で試験時に本人照合を行う。本人と確認できない場合は、失格となることがある。
- (4) 筆記試験は、原則として、試験会場(東京大学)で実施する。海外在住者等で試験会場での受験が不可能な者や、本人に基礎疾患があり、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高い者には、オンラインでの受験を許可する場合がある。オンラインでの受験が許可された者は、試験会場での受験に変更することはできない。オンラインでの受験の可否及び試験に関する詳細は、受験票提出時に通知する。オンラインでの受験が許可されたものは、事前に実施する模擬試験に必ず参加すること。参加しない者は受験資格を失う場合がある。なお、オンライン筆記試験では、公平性確保及び不正防止の観点から、受験者の録画・録音を行う。詳細は、6月中に本専攻の Web サイトに掲載(<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>)に掲載する。この場合も、(5)の準備を行うこと。
- (5) 現時点で試験は対面で行う予定であるが、状況によってはオンラインで実施する場合もあり得る。その場合は、別途 Web サイトなどで通知をするが、オンライン試験では、試験に先立ち、予め以下のものを受験者自身で準備、確保しておく必要がある。
 - ・明るい静かな個室(静寂が担保できる個室環境)
 - ・動画を使ったオンライン試験が可能な光回線などのネットワーク環境
 - ・カメラ・マイク付きパソコン
 - ・カメラ付きスマートフォン(4G又は5G)

- (6) 今後、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、本案内の内容について、一部変更する可能性がある。変更する場合は、本専攻 Web サイト (<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>) で知らせる。
- (7) その他、本専攻 Web サイト (<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>) で関連情報を周知するので、随時確認すること。

【2021年5月28日追記】

- ・「研究計画概要書」の提出は不要としました。すべての志願者は、「研究計画書」を提出すること。

【2021年6月24日削除】

- ・建築学専攻の指導教員と専門領域の一覧から「野城智也教授」を削除しました。

博士用

建築学専攻の指導教員と専門領域の一覧（教員名は五十音順）

教員名	所属	系	専門領域
赤司泰義 教授	工・建	環境	建築エネルギーシステム、建築熱環境、運用・管理、コミッションング*
糸井達哉 准教授	工・建	構材	リスク・レジリエンス工学、荷重論、地震工学
今井公太郎 教授	生 研	計画	建築計画・建築設計・都市解析
伊山 潤 准教授	工・建	構材	鋼構造・耐久性工学・地震波動解析
海野 聡 准教授	工・建	歴史	日本建築史・東アジア木造建築史・文化遺産
大岡龍三 教授	生 研	環境	都市・建築環境工学(熱・空気・エネルギー)・サステイナブルエンvironment
大月敏雄 教授	工・建	計画	建築計画・住宅地計画・ハウジング・住宅政策・復興デザイン
小淵祐介 准教授*	工・建	意匠	デジタルアプリケーション・デザイン思考・都市生態学・建築情報学
加藤耕一 教授	工・建	歴史	西洋建築史・近代建築史・建築理論
川口健一 教授	生 研	構材	構造解析・空間構造工学
川添善行 准教授	生 研	意匠	建築意匠・風景論
菊本英紀 准教授	生 研	環境	都市・建築環境、環境制御工学
楠 浩一 教授	震 研	構材	耐震工学・強震観測・鉄筋コンクリート構造
腰原幹雄 教授	生 研	構法	木質構造・建築構法
権藤智之特任准教授	工・建	構法	建築生産・建築構法
坂本慎一 教授	生 研	環境	建築音響・騒音制御
佐久間哲哉 教授	工・建	環境	音環境・建築音響・騒音制御・居住環境
塩原 等 教授	工・建	構材	鉄筋コンクリート構造・耐震工学
田尻清太郎 准教授	工・建	構材	耐震工学・鉄筋コンクリート構造
館 知宏 准教授	総文研	構材	構造幾何学、コンピュータショナルデザイン
千葉 学 教授	工・建	意匠	建築意匠・都市空間デザイン
中埜良昭 教授	生 研	構材	耐震工学、鉄筋コンクリート構造、地震・津波防災
野口貴文 教授	工・建	構材	建築材料・資源循環・低炭素・耐久設計・維持保全・建築防火
林 憲吾 准教授	生 研	歴史	アジア都市・建築史、アーバンスステイナビリティ学
藤田香織 教授	工・建	構法	木質構造・伝統構法
本間健太郎 准教授	生 研	計画	建築計画・空間デザイン数理
本間裕大 准教授	生 研	計画	建築計画・都市解析・社会システム工学
前 真之 准教授	工・建	環境	建築環境 特にサステイナブル住宅のデザインと要素技術開発
松田雄二 准教授	工・建	計画	建築計画、医療福祉施設計画、ユニバーサルデザイン
丸山一平 教授	工・建	構材	建築材料学、極限環境材料開発、保全工学
三谷 徹 教授	工・建	意匠	ランドスケープデザイン、空間形態論
野城智也 教授	生 研	構法	建築生産・マネジメント、サステナブル建築、BIM及び建築用IoT
安原 幹 准教授	工・建	意匠	建築意匠・建築設計
山田 哲 教授	工・建	構材	鉄骨構造・耐震工学・免震構造・制振構造
横山ゆりか 教授	総文研	計画	建築計画、環境行動・環境心理学、設計方法論

* Architecture and Urban Design Course (G30-UDA) の学生のみ選択可能。

(注) 工・建：工学系研究科建築学専攻 本郷
震 研：地震研究所 弥生
生 研：生産技術研究所 駒場Ⅱ
総文研：大学院総合文化研究科 駒場Ⅰ
構材：構造・材料系

希望指導教員申告書
Prospective academic supervisors declaration form

受験番号 *1

Exam ID *1

*1 は記載しないこと / *1 Do not fill in

受験者氏名

Examinee Name

電子メールアドレス

E-mail Address

緊急連絡先

Emergency Contact

A 研究の指導を希望する教員を「令和 4(2022)年度東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士後期課程入学志願者案内」5 頁の表から最大で 2 名選択し、以下の欄に教員名及び系を記入すること。

Applicants must select up to two prospective academic supervisors from the table on pages 6 and 7 of "2021 Guide to the Doctoral Program Entrance Examination Department of Architecture, Graduate School of Engineering, The University of Tokyo" and write their names and research divisions in the following table.

	第一希望 First choice	第二希望 Second choice
教員名 Academic supervisor name		
系 Research division		

B 希望する群を○で囲むこと。 Circle the group number

入学志願者案内 4. 選抜方法の(1)第 1 次試験(A)筆記試験参照 Refer to 4 (1)(A) in the guide

専門課題 II Special Subject II	第 1 2 3 4 群
-------------------------------	-------------

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了または修了または修了見込みの者は、専門課題 II は省略のため○印不要

(建築学専攻)
(Department of Architecture)